

わたしたちは、予防医学を通じて人々の「生涯健康」「健康寿命の延伸」をめざし、健康と福祉の向上に努めることにより、社会に貢献してまいります。

# よぼう医学

THE NEWS OF HEALTH SERVICE

## がん検診を知ろう

第56回 日本人間ドック学会学術大会 市民公開講座より

### がん体験者の「語り」に注目し 検診のあるべき姿を考える

死亡率減少効果があるとして国が推奨している各種のがん検診。その効果を最大限に発揮するため、受診率の向上が喫緊の課題とされている。一方、がん検診には過剰診断などの問題があることも指摘されており、がん検診のあり方をめぐって専門家の間や学会などでも議論が重ねられている。こうした中、神奈川県・横浜市で7月31日に開催された第56回日本人間ドック学会学術大会(天会長・土屋敦和と会理事長の)の市民公開講座では、「がん検診を知ろう—あなたが主人公となるために—」をテーマに、4人の演者が登壇し、パネルディスカッションが行われた。

市民公開講座の冒頭、本学クリニックの別府宏院長が主催者を代表して挨拶し、会長である和会横浜ソウ「私が理事長を務める市民活

動『NPO法人健康と病いの語り』ディベックス・ジャパン」では、疾病体験者の語り(ナラティブ)を収集分析し、ネット上に公開する活動を続けている。そこで今回の公開講座では、がん体験者の視点から検診が抱えている問題を捉え、検診のあるべき姿を考

えるといふ、大胆な企画を立てた」と述べた。

最初の演者であるキャスターの原元美紀氏は、「番組収録で見つけた大腸がん」と題して講演し、自らの検診と治療の体験談を紹介。定期的ながん検診を受けることの重要性と、検診結果の意味やその後の対応などについて気軽に相談できる「かかりつけ医」の必要性を訴えた。

次に早稲田大学人間総合研

究センターの鷹田佳典招聘研究員が登壇し、「なぜ人は大腸がん検診を受けるのか、あるいは受けないのか」と題して講演。その多様な理由について、自身も作成に関わったディベックス・ジャパンの「大腸がん検診の語り」から考察した結果を紹介した。

鷹田招聘研究員は、「体験者の語りから、検診をめぐるさまざまな誤解や情報不足の状況が明らかになった。単に結果に異常があってもなくとも、人々が検診に「感謝する」メカニズムを示した上で、「しかし、実際に検査で病気を早期に発見し、予後の改善や寿命の延長などのメリットが享受できるケースは受診者の一部であり、検診に伴う痛みや苦痛、費用負担、過剰診断や過剰治療を受けるなどのデメリットが生じる可能性もあることを理解しておくことが重要だ」と指摘した。

最後に、「がん検診は誰のために エビデンスとナラティブを通して」と題して講演した京都大学大学院医学研究科の中山健夫教授は、「公的ながん検診はエビデンスに基づいて行われており、その方法は疫学的な研究で明らかにされた一般論である。そして、このエビデンスと医療者の専門性・経験、個人の価値観などを統合するのが科学的根拠に基づく医療(EBM: Evidence-based medicine)である」と解説し、次のように述べた。

「しかし、人間は多様で個性が大きく存在するので、すべての人にとって一律によい治療や検査・検診があるわけではない。エビデンスが重視される一方で、一般論だけでなく、当事者の体験や語りといった個別性の高いナラティブ情報に基づく医療(NBM: Narrative-based medicine)への関心も高まりつつある。エビデンスとナラティブは、次元の異なる、しかし両者相補い合う関係と言える」

### 小野良樹・本会新理事長のご挨拶 就任に当たって



この度、東京都予防医学協会(本会)の第4代理事長に就任いたしました。その重責に心が押し潰される思いの昨今です。

本会は1949年、前身である東京寄生虫予防協会として発足しました。その後、先人らの努力により年々業績が向上し、今や代表的な健診機関として公益財団法人に発展しました。

私は2004年、日本大学

定年の折に、偶然、第3代理事長の北川照男先生にお会いし、それを契機に、本会で第2の人生を歩ませていただいております。北川前理事長からいただいた諸種薫陶を、熟成しないうちに今日を迎えたのは残念の極みに存じます。

一つ申せることは、私は入職後、次第に本会に愛着を感じるようになり、今や誰にも負けない「愛社精神」を持っているということです。

景気低迷の影響は避けがたく、本会も順風満帆とはいえない時期に入りました。そこでギアを入れ替え、役員一同、再度粉骨砕身の努力をするようお願いしました。

キーワードは「活性化」で

願ひ申し上げます。

ある東京寄生虫予防協会として発足しました。その後、先人らの努力により年々業績が向上し、今や代表的な健診機関として公益財団法人に発展しました。

私は2004年、日本大学

定年の折に、偶然、第3代理事長の北川照男先生にお会いし、それを契機に、本会で第2の人生を歩ませていただいております。北川前理事長からいただいた諸種薫陶を、熟成しないうちに今日を迎えたのは残念の極みに存じます。

一つ申せることは、私は入職後、次第に本会に愛着を感じるようになり、今や誰にも負けない「愛社精神」を持っているということです。

景気低迷の影響は避けがたく、本会も順風満帆とはいえない時期に入りました。そこでギアを入れ替え、役員一同、再度粉骨砕身の努力をするようお願いしました。

キーワードは「活性化」で

願ひ申し上げます。

願ひ申し上げます。

願ひ申し上げます。



パネルディスカッションでは、検診の利益と不利益に関する体験も語られた

### 今月の主な紙面

- (1面) ●がん検診を知ろう  
第56回日本人間ドック学会学術大会 市民公開講座より  
●小野良樹・本会新理事長のご挨拶
- (2・3面(見開き))  
●「よぼう医学」500号記念特集  
創刊から46年のあゆみ
- (4面) ●「東京都予防医学協会賞」  
PKU親の会・関東総会で5人を表彰—本会  
●幸せな人生を楽しんでいただくために  
●予防医学事業中央会の全国運営会議が開催  
●連載 ALCAだより(10)

### 個人情報の取扱いについて

日頃より、東京都予防医学協会の機関紙「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。本会では、現在「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(名前、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理のもとに運用しております。その上で今後も継続して送らせていただきたいと考えております。送付名簿から削除を希望される場合には、お手数ですが、広報室(電話03-3269-1131)までご連絡ください。

### 送付先の変更・中止について

送付先の住所変更・購読中止の場合には、変更内容を明記の上、本会広報室までお知らせください。  
Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp  
FAX 03-3269-7562  
お電話(03-3269-1131)でも承っております。

# 「よぼう医学」500号記念特集 創刊から46年のあゆみ



## 1969年 6月号 創刊号 検尿・子宮がん検診・人間ドックの重要性訴える

創刊号トップは、都内初の全額区費による足立区の学童の集団尿検査の話題を取り上げている。こうした先駆的な取り組みを褒め、1973年から学校保健法により腎臓検診の実施が法制化され、全国で行われるようになる。その他、特集では「おかあさんいっしょで健康で」と題して子宮がん検診を、4面には当時珍しかった「白人人間ドックの様子を紹介している」。



## 1973年 1月号 第41号 年頭所感に 武見太郎氏登場

第41号には武見太郎氏が年頭所感をお寄せくださった。日本医師会会長、世界医師会会長を歴任した武見氏は、本会の前身である東京衛生予防協会の設立に物心両面で助力を惜しまなかった方である。本会設立後も、われわれの活動をよく理解してくださり、長年にわたって貴重な助言や示唆をいただいた。

また、「創刊開巻」では本会の創始者である国井長次郎氏が本会の活動や役割について、年齢や性別に応じた検診を行うことで「検診の輪が広がり、個人の健康に対する認識が深まれば、集団としても地域においても、それぞれ健康が増進される」と語っている。

## 1975年 11月号 第74号 公費による 新生児スクリーニングが決定

第74号では、公費による新生児マス・スクリーニングについて、77年度からの実施が決定したことを取り上げ、「これだけで国も、先天性代謝異常症対策に本格的に取り組みすることになった」と伝えている。



## 1981年 11月号 第139号 事後指導の充実など 職域の健康管理に新たな動き

さらに、本会が東京産科医療保健協会、現・東京産婦人科医会と協力し、国の対策に先んじて74年から行っているガソリー法による検査が1万人を突破したことがついても報告している。



80年代に入り、職業病の予防と健康管理の充実、さらに進んで健康づくりが強調されるようになってくる。本会が協力している職域の健康管理でも、保健指導まで含めた健診を希望するユーザーが増加している。この第139号では紹介している。

## 「よぼう医学」500号 ありがとうございます

本紙「よぼう医学」が500号という記念すべき区切りの号を迎えた。

創刊号から振り返ってみると、学校保健法を改定させた研究「学校検尿・心臓検診」、新生児マス・スクリーニング、東母方式による子宮がん検診、「東京から肺がんをなくす会」などなど、時代の先を行く話題を多く掲載していることに気づく。

ご執筆いただいた多くの先生方、情報提供してくださった方々、ご登場願った専門家の方々など、多くの皆さまに心より御礼申し上げます。501号からも、読者の方々に喜んでいただける紙面づくりに一層の努力をいたしますので、何とぞご指導・ご協力をお願い申し上げます。

「よぼう医学」編集長  
東京都予防医学協会専務理事  
山内 邦昭

## 1988年 5月号 第200号 小児成人病予防検診 全国規模で始動



予防医学事業中会は専門家の強い要望を受け、国の対策に先駆けて87年より「小児成人病予防検診研究事業」として成人病予防検診と健康教育を全国規模で開始した。

## 世界初「肺がんCT検診」の実績元に 最先端の検診や治療を示す



本会が運営する会員制の肺がん検診組織「東京から肺がんをなくす会（ALCA）」では、世界に先駆けてCTを用いた肺がん検診を導入し、実績をあげてきた。

## 2000年 2月号 第329号

## 2000年 3月号 第330号 子宮がん検診件数 延べ500万件を突破



本会が東京産婦人科医会との共同事業として、行政や専門医らと協力して実施している子宮がん検診が延べ件数500万件を突破。第330号のトップでは記念の会の模様を報告した。

## 2015年 3月号 第495号

## 1、4面をフルカラー化 本館の新装オープンを機に紙面一新



15年3月、本会の拠点である保健会館本館が2年にわたる改修工事を経て新装オープンした。サードフロアの完成を機にリニューアルした施設を495号では紹介している。

年	号	内容
1967(年)		財団法人東京都予防医学協会が誕生。前身である財団法人東京衛生予防協会の主な事業(細菌検査、胃がん検診、学童集団検尿、人間ドックなど)を引き継ぎ発足
69		「よぼう医学」創刊(6月号)
72		シリーズ「職場の健康」開始/シリーズ「ほけん室だより」開始
73		岡村治先生の連載「健康診断の盲点」開始
74		学童糖尿病検診を開始/新生児の先天性代謝異常症マス・スクリーニングを開始
75		シリーズ「健康管理の顔」開始
77		連載「ALCAニュース」開始
78		シリーズ「こどもたちの突然死」開始
80		妊婦甲状腺機能検査を開始
81		新谷富士雄先生の連載「循環器もよま話」開始
82		乳がん検診を開始
84		辻悦子先生の連載「健康と栄養」開始
85		小児成人病予防検診を開始
87		吉田健一先生の連載「暮らしの中の健康づくり」開始
88		正木基文先生の連載「健康管理統計の落とし穴」開始/前田美穂先生の連載「こどもの貧血」開始
89		成澤達郎先生の連載「フィットネス考・健康について」開始/シリーズ「わが社の健康管理」開始
90		シリーズ「健康管理O&A」開始
92		職域の健康づくりを推進する「健康づくり懇話会」発足/職域の健康管理ソフトを開発
93		平山雄先生の連載「常識の盲点」開始
95		ALCAで世界に先駆けてヘリカルCTによる肺がん検診を導入
96		人間ドックにヘリカルCTを導入
97		大岡真彦先生の連載「小児科医が語るいま子どもの健康は」開始
98		紙面をモノクロからフルカラーに(4月号)開始/宮尾克先生の連載「検診と放射線」開始
99		シリーズ「メンタルタフネス」/ストレスマネジメント」開始
2000		理忠洋一先生の連載「人間ドックと生活習慣病」開始/シリーズ「産業医訪問」開始
01		肥満シリーズ「おとなの肥満」開始
02		北川照男先生の連載「検診 検診の根拠」開始
03		岡村治先生の連載「ウソのようなホントはなし」開始/連載「健康づくり」健康増進を支援するページ」開始/宮尾克先生の連載「人間ドックからアプローチする快適職場づくり」開始
05		岡村治先生の連載「おことばですが、保健指導反省記」開始
06		大島明先生の連載「たばこ問題とその規制対策」開始
07		新生児マス・スクリーニング30周年記念事業「東京都予防医学協会賞」を設立
08		津金昌一郎先生の連載「科学的根拠に基づいた日本人に推奨できるがん予防法」開始
09		「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験(JUSTART)」に参加
11		中山健夫先生の連載「どう読む?健康情報」開始
12		鷲崎誠先生の連載「備えあれば憂いなし」開始
13		4月1日より公益財団法人東京都予防医学協会となる
15		小山和作先生の連載「予防医学のこれから」開始
		検査研究センター棟が完成/八王子市HPV検診検証事業に協力
		金子昌弘先生の連載「ALCAだより」開始
		保健会館本館がリニューアルオープン(3月)
		「がん対策加速化プラン」策定へ
		「健康日本21」(第2次)が開始
		「Smart Life Project」が開始
		タンデムマス法による新生児マス・スクリーニングが公費負担化
		がん対策推進基本計画が策定
		特定健康診査・特定保健指導が開始
		学校保健法が学校保健安全法に改題、改正
		「Smart Life Project」が開始
		労働安全衛生法が作業環境測定法が施行
		第1次国民健康づくり対策が開始
		がんが死亡原因第1位に
		老人保健法が成立
		老人保健事業第1次5カ年計画により胃がん・子宮頸がん検診が導入
		第1次対がん10カ年総合戦略が開始
		老人保健事業第2次5カ年計画により肺がん・乳がん・子宮体がん検診が導入
		「アクティブ80ヘルスプラン」が開始
		「心」から健康づくり運動(THP)が開始
		昭和から平成へ改元
		成人病が「生活習慣病」に改称
		「事業場における労働者の健康保持増進のための指針」が改正
		年間自殺者数が3万人を突破
		「健康日本21」が開始
		「VDT作業における労働衛生管理のためのガイドライン」示される
		健康増進法が施行
		たばこ規制枠組条約が発効
		「保健指導反省記」開始
		がん対策基本法が成立
		がん対策推進基本計画が策定

## 本会の軌跡と健康づくりの歴史

(紫字は本紙の主な連載など)

# 「東京都予防医学協会賞」

## PKU親の会・関東総会で5人を表彰

8月1日、都内で開かれたフェニルケトン尿症(PKU)親の会・関東総会で「東京都予防医学協会賞」の表彰が行われた。この事業は、新生児マス・スクリーニングで発見され、長期にわたって食事療法を継続し、勉学に励み、社会で活躍している方々に対して2007年から毎年本会が行っているもので、今年5人が選ばれた。

成長できるが、厳格な食事療法を続けていくことは容易ではない。そこで本会では、生涯にわたる適切な食事療法を続けていくことにより、健康に「いただきます」を願って「東京

# 生涯にわたる 適切な食事療法の継続を願い



新生児マス・スクリーニングされた子どもたちは、適切な食生活により適切な食事療法を続けていくことにより、健康に「いただきます」を願って「東京

### 本会

都予防医学協会賞」を設立し、表彰を行っている。

賞状と副賞、記念メダルを北川照男本会顧問

から贈られたHさん(写真上)は、「大学では保健室でミルクを作らせてもらって毎日飲んでいました。友達には病気のことをオープンに話していませんが、わかってくれる人が多いので助かっています。そして何よりも、理解してくれる家族がいることが大事だと感じています」と思いを語った。

今回は、東京から肺がんをなくす会(ALCA)が、昨年からの検査に加えて、呼吸機能(肺機能)検査について説明します。CTとX線による画像診断が、肺がんや肺炎など肺の部分的な病気の有無を調べるのに対して、呼吸機能検査は肺全体の動きの程度を調べる検査です。この検査は、喫煙との関連が強い慢性閉塞性肺疾患(COPD)の診断には不可欠です。

ALCA だより  
金子昌弘 本会呼吸器科 本部長

### 呼吸機能検査

検査の方法は、スパイロメーターという装置について筒を口にくわえ、検査技師の合図に従い、息をできるだけ吸ってから吹き込みます。思い切って強く吹かないと正確な値が出ないので、結果が予想より低い場合には、何回か行い、一番いいデータを採用しています。調べているのは、いわゆる「肺活量」と、1秒間で肺活量全体の何割を吐いたかを示す「1秒率」と、それが80%以上あれば「軽度」、80~50%は「中等度」、50~30%は「高度」、30%以下は「極めて高度」と分類され、息切れなどの症状とも合わせて、治療方法が決まります。

## 予防医学事業中央会の全国運営会議が開催

予防医学事業中央会の平成27年度第1回全国運営会議が7月1日、東京・新宿区で開かれ、本会など全国の支部から約80人が参加した。

今回のテーマは「これから」の健診事業の運営について。事務局次長、兵庫県予防医学協会の東塚伸一事務局長が、それぞれの支部の健診事業の取り組みを報告し、意見交換が行われた。

また、データヘルス計画やマイナンバー制度の導入など、国によるビッグデータの有効活用が進められていることを受けて、エム・ピー・オーの森口修逸代表取締役が「個人情報保護法の改正(案)を巡る最近の話題」と題して講演した。

11月18日(水) 14~16時  
東京千代田区「星陵会館」  
第264回ヘルスケア研修会が11月18日(水)、「星陵会館」で開かれる。

### お知らせ

やる気を引き出す  
コミュニケーション・スキル

## 幸せな人生を 楽しんでいただくために

北川照男 本会顧問

私の友人のピッケル先生(PHE)によると考え、こと効果が乏しいことが明らかで、フェニルケトン尿症(PKU)の発症障害は血中での増加しているフェニルアラニン(PHE)によるものと考え、これを減らすことができれば障害を予防できると考えた。そこで、1951年に低PHE食を作り、2歳2カ月のPKUの女児シェイラに与えたところ、彼女は数カ月後に椅子に座り、独り歩きをし、母親の言うことを聞くようになっていった。ピッケル先生がひそかに食事にPHEを混ぜて与えたところ、シェイラの状態は再び悪化した。低PHE食の再投与によって症状の改善を見たので、その有効性を確認したという。

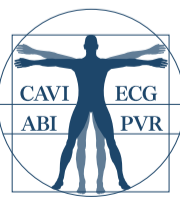
その後、PKUに対する食事は生後早期に始めない。PKU家族の2群に分けて、相談して欲しい。

最後に、授賞式でPKUの子どもたちや成人の方々に贈ったメッセージを紹介したい。

「PKU親の会・関東の会」の方は、採取した紙血液を本会のスクリーニング科に送るか、受診して、定期的に血中PHE値を測定してもらってください。

## 血圧脈波検査装置

VaSera<sup>TM</sup>  
VS-3000シリーズ  
医療機器認証番号: 224ADBZX00086000



不整脈など、波形の乱れが生じやすいデータでも適切な連続波形を選択し、計測することが可能です。

FUKUDA DENSHI

〒113-8483 東京都文京区本郷3-39-4 TEL (03) 3815-2121 (代) http://www.fukuda.co.jp/

●医療機器専門メーカー

## CAVI Cardio Ankle Vascular Index (心臓足首血管指数)

● 動脈の硬さの評価  
CAVIは大動脈を含む「心臓から足首」までの動脈硬化度を反映する指標で、動脈硬化が進行するほど高い値となります。また、測定時の血圧に依存しない、血管固有の硬さを評価します。

## ABI Ankle Brachial Pressure Index (下肢動脈の狭窄、閉塞)

● 末梢動脈疾患(PAD)の鑑別診断・重症度判定  
ABIは、下肢動脈の狭窄・閉塞を評価する指標です。PADは、心血管疾患、脳血管疾患など、他臓器障害との合併が多く見られることから、早期発見が重要とされています。

